敦賀市立博物館友の会

令和５年８月 第100号

博物館友の会だより

題字：千葉半厓

文化振興ニュース

友の会総会開催＆文化財保存計画WS（ワークショップ）開催＆けーさん祭等開催

七月八日（土）、みなとつるが山車会館二階研修室にて、令和五年度の友の会総会を開催しました。当日は十一名が参加し、無事終えることが出来ました。記念講座として博物館で開催中だった『江戸時代・西福寺の事件簿』展について学芸員による解説がありました。

昨今の急激な少子化や過疎化等の社会変化により、地域の歴史的文化的資源が失われていく事が懸念されています。これを防止するため、未指定を含めた有形・無形の文化財を確認し、まちづくりに生かしながら継承の道を模索する「文化財保存活用地域計画」作成が文化庁より提示されました。これにともない敦賀市文化振興課では、地域のお宝となる歴史的なモノ（未指定文化財）のデータを蓄積するため、地域の皆様に集まっていただき、文化財等にまつわる思い出や情報提供をしていただくワークショップを開催しています。次は皆様の場所にお邪魔するかもしれません。（博物館職員がお手伝いしています）

7月8日に開催された総会の様子

令和４年度に開かれたワークショップ

今年度はコロナ禍も表面的には収束し、様々な物事が各現場の人々の努力によってコロナ前の通りになろうとしています。花火大会は台風により中止となりましたが、９月には御鳳輦、山車の巡行、パレードなど気比さん祭りが開催される予定です。氣比神宮の前の通りが改修され道路が狭くなって最初の山車の巡行の風景は、さてどうなるでしょうか？

来年に迫る新幹線延伸という、交通の要衝・敦賀にとっての新たな歴史のステージが始まるのにあわせ、博物館・山車会館では、関係する美術や歴史資料・民俗行事などのコンテンツ創造のため、いろいろとやることが山盛りですが、皆様のご支援ご協力、何卒よろしくお願い申しあげます。

さまよえる道標―釘屋勘四郎のこと―

友の会会長　川村　俊彦

令和四年十二月、興味深い道標が今庄駅前にお目見えした。今庄観光ボランティアガイド協会の創立二十五周年記念との由である。

高さ一・二メートル、一五センチ角の御影石の標柱で、二つに折れたのを接いであり、

（正面）「右ハ　北国今庄道」

（左側面）「左ハつるが并気比宮道」

（背面）「享和元辛酉年八月上旬／施主釘屋勘四郎」（注：西暦一八〇一年）

という碑文が刻まれている。

施主の釘屋勘四郎は、氣比宮門前にある寛政四年（一七九二）奉納・天保十四年（一八四三）再建の石灯籠に、願主として名を列ねる釘屋中七名のうちの一人である。

今庄駅前の道標

中世以来の刀鍛冶の伝統がある敦賀では、近世になるとその末流は産業としての鍬鍛冶、刃物鍛冶、碇鍛冶、釘鍛冶などに転化していった。このうち釘鍛冶は、早くは慶長六年（一六〇一）から始まった福井城普請の御用釘を納め、後には享和元年（一八〇一）から文化九年（一八一二）にかけての箱館会所からの釘類の大量注文に応じている。敦賀の釘は「きたひよきとて、若狭・美濃・尾張・伊勢等の諸国是を用ふ」（『敦賀志』）るブランド品であった。釘屋勘四郎とは、それを取り扱った釘問屋の一人というわけである。

なお、かつて疋田には「釘勘」と刻銘のある文政八年（一八二五）の道標があった。残念ながら盗難に遭い逸失したが、これとは別に明治六年（一八七三）の道標が残っており、施主は「敦賀湊〈刀田勘四郎」とある。この人物は、大小区制当時の明治七年に大黒町在住で副戸長を務めた。もとより前述の釘屋勘四郎とは世代が異なるが、同じ家系で勘四郎を襲名した人物であろう。

ちなみに、刀田家の出自は刀根・気比宮の宮司・安倍氏で、勘四郎は新道の品川家から刀田家に入籍したと伝えられている。

さて、では、この道標は元々どこにあったのか。案内板の説明は曖昧で、関係の皆様も御存知ないようだが、碑文から推測すると、京を背にして越前へ下る道中での、敦賀湊への分岐点に建てられていた筈である。

ついては『敦賀郡東郷村誌』（一九七三）に紹介された「村内の道標」のうち次の二基が目を引く。（いずれも現在は所在不明。）

一基は、谷口の道標であり「御影石の角柱で、北陸路と敦賀道の分岐点にあったものと思われるが、終戦後、道路改修の際、二つに折れ流失した」というもの。

もう一基は、市内清水町の某古物商の前にあり、高さ一二〇センチ、一五センチ角で「右ハ北国今庄道、左ハつるが並気比宮道」と刻まれ、もとの建標場所は不明のもの。

按ずるに、これらは同一で、はじめ谷口にあったのが、古物商を経由し、彷徨った挙句、今庄まで行き着いたのではあるまいか。

文化財の顕彰に努める今庄の皆様には敬意を表するが、資料としての来歴の追究をゆるがせにしてはなるまい。現在を彷徨う私たちにとって、歴史を正しく学ぶことは、まさに未来への道しるべとなり得るのである。

○令和５年度展示のご案内

▼一・二階展示室

常設展示「敦賀を彩る歴史と文化」　通年

常設展では、一～二か月の期間で一部のコーナーを入れ変えながら常設展示をしています

▼二階展示室

「館蔵文芸資料展

江戸時代・敦賀の文芸資料」

七月二十一日（金）～九月十日（日）

江戸時代、文芸に親しんだ敦賀の人々が残した資料をはじめ、おくのほそ道の旅で敦賀を訪れた松尾芭蕉の関係資料も展示します。

▼三階展示室

「近代資料展　敦賀の学校いまむかし」

七月二十一日（金）～九月十日（日）

市内各学校に残されている写真や資料を展示し、過去の学校のはじまりから、未来の学校の展望までを考えます。

▼二・三階展示室

特別展

没後１００年記念　**内海吉堂**

［会期］九月十四日（木）～十一月五日（日）

内海吉堂は、明治から大正時代にかけて活躍した敦賀出身の南画家です。幼少期に多賀（滋賀県）の医師・小菅兎峰の下で漢学を学び、絵は幕末明治を代表する四条派の画家・塩川文麟に学びました。明治十年（一八七七）から六年間、中国へ渡って文人たちと交流し、帰国後は南画家として画壇で活躍しました。本展では吉堂没後百年を記念して、吉堂の初期から晩年までの画業を新出作品を交えてご覧いただきます。吉堂が描く上品で華やかな花鳥画から、晩年の貫禄ある山水画まで、多彩な絵画の世界をぜひお楽しみください。

■イベント情報

☆特別展記念講演会

「内海吉堂と「中国」―画業と生涯から―」

［講師］東京大学東洋文化研究所教授

塚本 麿充氏

［会場］きらめきみなと館　申込不要／参加無料

［開催日］十月二十八日（土）　十三時半

☆特別展ギャラリートーク

［開催日］　九月二十四日（日）

十月十四日（土）　各日十四時

申込不要／参加無料（要入館料）

☆特別展ワークショップコーナー

博物館地下にて工作体験ができます。

☆特別展記念研修旅行　学芸員と行く！近江商人と内海吉堂の所縁を探るツアー

十月十二日（木）頃開催予定・近江八幡市（滋賀県）の関連史跡を見学し、知られざる歴史を訪ねます。詳細は別途ご案内します。皆様ふるってご参加ください。

▼三階展示室

柴田氏庭園リニューアルオープン記念

「市野々の柴田権右衛門さん」

十一月八日（水）～十二月十七日（日）

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

☆☆友の会役員・スタッフの募集☆☆

友の会ボランティアスタッフ随時募集中です！友の会報の原稿も募集中です！ご興味のある方は博物館までお問い合わせください。

○令和５年度後半展示のご案内

▼二階展示室

「刀剣資料展～越前と若狭の刀剣～」

十一月八日（水）～十二月二十八日（木）

館蔵する刀剣資料を展示します。

☆記念講演会　十二月十七日（日）予定

［講師］福井県立歴史博物館　有馬香織氏

■イベント情報（気比史学会と共同事業）

歴史ウォーキング

「鉄道と港がつながる敦賀を歩く」

［開催日］十一月三日（金）（詳細後日）

［講師］学芸員　藤本悠希

■イベント情報

第二十一回　吉継カフェ

［講師］奈良大学教授　外岡慎一郎氏

［会場］きらめきみなと館　申込不要／参加無料

［開催日］一月十三日（土）十三時半～

恒例の戦国武将・大谷吉継に関連する連続歴史講座を今年も開催します。

博物館のつぶやき・・・

八月五日（土）・十一日（金）に開催したナイトミュージアム「魅惑の夜の博物館」では、天井の照明をおとし、展示ケースの明かりだけで学芸員が館内を案内するイベントを行いました。

数人のお客様が来館され、普段とは違う幻想的な館内の風景を楽しみながら夏の夕涼みをしてもらいました。ただお楽しみクイズラリーとしてお渡しした面白クイズが、館内の時計が示す時間をもじった、ちょっととんちが必要な問題だったため、某職員Ｂなどは最後まで理解でなかったという、そんな悲しい話もあります。

事務局長の期待とつぶやき・・・

「事務局長が期待をよせる超新星」

実に４年ぶりに敦賀の秋を告げる敦賀まつりが開催されますので、まつりへの登場を私が心待ちにしている方々をご紹介します。

敦賀市のご当地ソングや民謡をこれからも継承するために福井県初の高校生ＮＰＯ法人として設立された「特定非営利活動法人とても敦賀すきすき」は、花柳太英大和先生のご指導のもとに習得した足先、指先にまで神経がピンと張り巡らされた踊りを披露してくれること期待大です、皆様も是非９月４日19：00～20：30は本町通りで行われる民謡踊りの夕べにＧＯ！

昭和歌謡曲が好きだという理事長の森野巧巳君（高校２年生）が調べた水前寺清子さんの27枚目のシングル敦賀とてもすきすきの概要をご紹介しますと、この曲は１９６９年６月１日に敦賀開港70周年記念曲として制作発表され、９月に毎年開かれている敦賀まつりの民謡の夕べでは３曲（敦賀とてもすきすき、大敦賀行進曲、すてな踊り）の内のひとつとして踊られていて敦賀市で最も愛されている曲の一つと言っても過言ではない名曲で作曲は敦賀市で楽器店を営み、クラウンレコード専属の作曲家として活躍した山崎正清、作詞は戦後歌謡界を代表する作詞家の一人の星野哲郎で彼は実際に敦賀に来て詞を書いているとの事、なるほど確かに敦賀市民の心にグッとくる歌詞ですね！

こんな知識にも裏付けされた彼らの活動にこれからも注目です。

博物館友の会だより100号

令和５年８月３１日発行

発行　敦賀市立博物館友の会

事務局　敦賀市相生町７－８

TEL 0770-25-7033

FAX 0770-47-6131

E-MAIL museum@ton21.ne.jp

［編集後記］

コロナ明けで博物館にも徐々にお客様が帰ってきて下さっています。その一方で、ここだけの話ですが、平成27(2015)年のリニューアルオープン以来、８年しか経っていないのですが、（最近の気候のせいもあってか、）空調やら何やら施設の不具合が頻発しています。皆さまと一緒に歴史コンテンツでワクワクしたいのですが、それどころではなく、今日は何が発生するやらと、職員一同胸のドキドキが止まりません。この胸の動悸、誰か止めて欲しい。（博物館職員）